



右/Right: サラ・フリン/Sara Flynn, Camber Vessel, 2019, 磁器/Porcelain, H30.5 cm/ 12 in.  
左/ Left: サラ・フリン/Sara Flynn, Camber Vessel, 2019, 磁器/Porcelain, H29 cm/ 11.4 in.

Photo by Glenn Norwood, Courtesy Sara Flynn

## SARA FLYNN

2019年9月7日(土) - 10月2日(水)

アーティストトーク：9月28日(土) 5:00 - 6:00pm

祝賀会：9月28日(土) 6:00 - 7:30pm

現代美術 艸居

京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

開廊時間：10:00-6:00PM 定休日：日・月



## プレスリリース

この度、現代美術 艸居では「サラ・フリン」展を開催致します。サラ・フリンはアイルランド出身の陶芸家。2017年の第1回ロエベ・クラフト・プライズにおいてファイナリストに選出され、日本のメディアからも大きな注目を集めました。

今展は日本国内での初個展となり、新作の磁器作品22点が展示予定です。また9月28日(土)にはアーティストトークおよび作家を囲んでの祝賀会を開催いたします。この機会に是非ご覧ください。

サラ・フリンにとって作品の制作とは、乾いていく過程で様々に変化しつづけるろくろ上の土をどう整形するかという挑戦であり、そしてその飽くなき探求の結果、作り出されるのが彫刻的で装飾的な器です。

一般にろくろで作られる器は左右対象で環状のものとなりますが、彼女の作品はろくろで形成した後、切り込みを入れ、繋げたりひねったりすることによりその特徴的なフォルムを手に入れます。いずれも素材に対する深い知識と理解、積み重ねてきた経験によりなせる技と言えます。

またそれと同様に彼女が気を遣うのが釉薬選びです。間違った釉薬や平凡な釉薬をかけられた器は平凡な器にしかならず、美しい釉薬をかけられた平凡なつくりの器は、やはりただの平凡な器にしかならないのだとフリンは言います。1260°Cから1280°Cのガス釜で焼成された作品は、複雑な色合いの黒、温かく鮮やかな黄色、涼しげで繊細な白といったそれぞれの形が引き立つ色彩をまとって、見る者を深く魅了してやみません。

### Sara Flynn (さら ふりん)

1971年アイルランド、コーク州生まれ。クローフォード・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザインで陶芸を学び、現在は北アイルランドのベルファストにて制作を行う。主な受賞歴には、2010年ピーター・ブレナン・パイオニア・ポッター賞、2016年ゴールデンフリース賞(同2019年)、2017年ロエベ・クラフト・プライズ(ファイナリスト)がある。

主なコレクションは、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館(イギリス)、アイルランド国立博物館(アイルランド)、ガーディナー博物館(カナダ)、フィッツウィリアム博物館(イギリス)など多数。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。

掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けると幸いです。

プレス担当：元林久美子

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入元町 381-2

Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457

motobayashi@gallery-sokyo.jp www.gallery-sokyo.jp